

教育実践資料の収集

伊 藤 康 志

今般、国立大学法人兵庫教育大学（梶田徹一学長）は開学三〇周年を迎えることが出来た。現職教員を迎え、高い水準（修士課程）での「学び直し」を行う、「教員のための大学」として新しく構想され、兵庫県加東郡社町（現加東市）で産声をあげて三〇年、これまでの皆様方のご協力・ご支援の賜として、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

開学以来、一貫して本学が大切に育ててきたのは、教育における「実践」を重視することである。常に学校現場での実践から何を学ぶことが出来るか、そこから何を研究課題として抽出し理論化できるか、あるいは理論（仮説）が果たして実践においてどれだけ有効であるか、実践の中で検証、結果を分析し、現場で求められる新たな研究とは何か、を考え取り組んできた。理論と実践の

循環の中で、学校教育をめぐる様々な課題を解決できる力量ある教員を育成することが本学の願いである。

こうした理論と実践の循環を支えるのは何より実践に関する多様な資料、「教育実践資料」だろう。各教員や学校がよりよい授業や学校づくりを目指して積み重ねてきた実践記録・事例報告、実践を分析した研究論文、学習指導案やオリジナルの教材等々、実践によって多くのアウトプットがなされる。

これら資料の一部は図書館や研究機関に所蔵されるが、そのほとんどは散逸してしまうか、部屋の片隅に積まれるだけである。個人の覚えとして後輩の教員に託されるものがあるのかもしれない。うまくいった授業もあれば、失敗した取り組みもあるだろう。いずれもが、実践にお

いても研究においても貴重な資料群である。

教育実践資料を如何にして収集・保存し、学校教員（教育現場に）、大学学生（大学の授業に）、研究者（実践的な研究に）などに効果的に提供できるか、教育実践を重視する「教職大学院」がスタートしたことと相俟って、全国の教員養成系大学では、ただいま主たる関心事となっている（例えば、鳴門教育大学には国語教育の研究者・実践者であった大村はま先生の学習指導記録コレクションを収蔵・公開している。現在は、これら資料の電子化も進めている）。

兵庫教育大学でも本学附属図書館において、平成一五年から兵庫県内の研究指定校報告書を中心に教育実践資料の本格収集を始めた。平成一八年度からは国立情報学研究所の「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」を受託し、本年三月に「兵庫教育大学学術情報リポジトリ（HARC）¹⁾」を公開している。これは本学教員・学生がまとめた論文などの研究成果を電子的に蓄積しインターネットで公開するデータベースである。現在は本学修士生の修士論文全文や指導教員のもとでの研究記録が中心であるが、今後は学内のみならず学校現場での教育実践資料

も数多く電子化する予定である。

附属図書館における収集、「HARC」による電子化を一体的・総合的に行う「教材文化資料館」（平成二二年度開館予定）の準備も進めている。教材文化資料館では、「教育実践資料・情報を収集し、整理・加工して、学校現場でのニーズの高い教材を発信する」ことを大きな目的としている。収集した教育実践資料をそのまま電子化することと並行して、これらに本学が産出してきた研究成果を資源に、学校教員が当該資料をより深く分析し効果的に活用するための、研究者による解説や改善案、参考文献や調査の情報などを加え、「現場で役立つ」データベースをつくりたいと構想している。言わば、現場での実践と本学での研究をひとつにして提供しようという試みである。出来るかぎり資料・情報を「生まるごと」で提供するデータベースはすでに数多くあるが、本学では研究と実践をつなぐことでより効果的なデータベースを目標んでいる。

平成二三年度から順次、新しい学習指導要領が始まる。学校教育の充実に向けた各教員の取組への期待は高いが、一方で日々の仕事に忙殺され授業研究もままならないと

いう現実もある。学校をめぐる実践と経験知をできるだけ
顕在化・共有化するお手伝いから始めたい。

注

(1) [http://www.iib.hyogo-u.ac.jp/data/about_heart/
repository.html](http://www.iib.hyogo-u.ac.jp/data/about_heart/repository.html)

(兵庫教育大学教育研究支援部長)